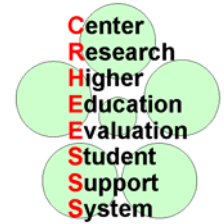


# 週刊センターニュース No.67



第67号(2005年7月4日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

**今週の共同学習会は橋本哲哉理事(情報担当)・副学長が報告担当されます。**

法人化後1年半近く、金沢大学はどう変わったのか、何が課題で、その解決に向けてどう取り組まねばならないのか、情報担当理事の立場からご報告いただきます。

第81回 日時: 7月7日(木) 16:20~17:50  
会場: 総合教育棟南棟2階 大会議室  
報告者: 橋本 哲哉(理事(情報担当)・副学長)  
題目: 「金沢大学の現状と課題」

## 教養カリキュラム刷新案における基盤教育について

近年の大学入学者の多様化を受け、また平成18年度からの「ゆとり」カリキュラムで教育を受けてきた学生の入学を控えて、全国の大学で学生の学力差、学習履歴の多様性に対応した科目が新設されたり、検討されている。これは、大学の教育目標を明確に反映したコア・カリキュラムを設定しようとする流れの中にある。当センターにおいても、レベル別の専門基礎科目や未履修者用クラスの設定、学部別のコア・カリキュラムの事例について情報収集を始めているが、ここでは事例紹介とともに、本学教養カリキュラム刷新案との関連について考えてみたい。

本学教養カリキュラム刷新案においては、「現代的な問題意識・専門の枠を超えた複合的視点・豊かな人間性等を涵養する(狭義の)教養教育」とともに、以下の刷新案からの引用より明らかなように、学部専門教育との連続性を意図した基盤教育としてのコア・カリキュラムを提言している。

(以下、刷新案最終報告より)

「・・・現行の「自由選択型」カリキュラムから、

全学あるいは各学部等による必修・選択必修を大幅に導入する(この場合の全学必修の授業科目は、科目コンセプトとしての同一性が最低限確保されていれば、各学部・学科等を対象に開講する授業内容自体は、その状況・要求に合わせて異なってもかまわない)

大学が何を重視し、どのような学生を育てようとしているかが分かる「コア」に当たる授業科目を明示しておく

というカリキュラム(いわゆる「コア・カリキュラム」)へと、カリキュラムの形態を変更することが必要である。・・・」

そして、この基盤教育を実現する主な科目区分が、一般科目と現行の基礎科目である。新しく設けられる区分「一般科目」の定義は、刷新案において、以下の通り提示されている。

「各学問領域について、当該学問の基本的な仕組み(対象・問題意識・方法論)、応用分野との関連性、学問形成の歴史などについてわかりやすく解説する授業、もしくは構築された知識体系の基礎的内容を習得させる授業で、専門教育の前提、もしくは補完として機能する基盤教育科目群」

今後、この一般科目として用意する科目群についての議論は、今回の教養カリキュラム刷新の核心になると思われる。文系学部の専門基礎については、例えば文学部コア・カリキュラムについて金沢大学も含めた9大学で検討され、様々なアイデアが提案されている。(これについては、過去の共同学習会、センターニュースで紹介した。)他の文系学部の専門基礎についても今後情報を集めたいと考えている。これらの情報は、一般科目についての議論において有益であると考えられる。

理系の専門基礎についても、現行の基礎科目を中心に新規の一般科目も含めて、専門教育への接続についての議論が今後展開されていくものと思われる。理系専門基礎については、高校での未履修の問題や数学と物理の内容の不整合の問題など解決すべき付随的な問題が存在している。(この点については、昨年11月当センター主催の第1回専門分野別教育開発セミナーにおいて北海道大学の小笠原正明教授に解説していただいた。)九州大学では、6年前より高校物理未履修者のための物理のクラスが開講されている。物理の履修に必要な数学的手法が、数学の授業では必要となる時期よりも遅く授業で出てくるなど不整合の問題に対しても、「基礎科学のための数学的手法」を扱う「ブリッジ科目」が開発され対処されている。(以上、平成17年3月出版、大学教育第11号より。九州大学高等教育総合開発研究センター刊行)北海道大学では昨年度より試行的に未履修クラス「初習理科」が立ち上げられている。また、文系学生のための「入門線形代数・入門微分積分学」、「入学物理学」や物理系学科学生のための「物理系物理学」、理系非物理系学科学生のための「非物理系物理学」など、レベル別のクラス編成が検討されている。

本学においても、高校での未履修者のための補充教育が検討されており、また各教員レベルで様々な工夫がなされているものと思われる。本学、他大学の事例についてさらに組織的に情報を収集し、理系の基盤教育についての議論に供していきたいと考えている。

(文責 大学教育研究開発部門 西山)

## センターからのお知らせ

下記の通り、今週のランチオンセミナーは「学び方教室」の第二週目を開催します。学生にアナウンスしていただきますようお願いいたします。

### ○学び方教室 第三週○

第54回	7月4日 (月)	転学部を考えている人のために	青野 透 (大学教育開発・支援センター)
第55回	7月5日 (火)	なぜ「話」は通じないのか - コミュニケーションの不自由論	仲正 昌樹 (法学部)
第56回	7月6日 (水)	レポートの書き方 中級編	青野 透 (大学教育開発・支援センター)
第57回	7月7日 (木)	Cognitive Neuroscience	大瀧 聡史 (医学部学生)
第58回	7月8日 (金)	法科大学院進学を考えている人のために	畑 安次 (大学院法務研究科)

## センター教員出張記録

2005.06.25 第7回大学評価セミナー(財団法人大学基準協会主催、関西大学)参加  
(堀井 公費出張)